

形 式：皮膚がん

一次研究用フォーム		データ記入欄	
基本情報	対象疾患	悪性黒色腫	
	タイプ		
タイトル情報	論文の英語タイトル	Impact on survival by method of recurrence detection in stage I and II cutaneous melanoma.	
	論文の日本語タイトル		
診療ガイドライン情報	ガイドラインでの引用有無	1.有り 2.無し ( 1 )	
	ガイドライン上での目次名称	MMCQ24-3	
書誌情報	エビデンスのレベル分類	I. システマティック・レビュー／メタアナリシス II. 1つ以上のランダム化比較試験 III. 非ランダム化比較試験 IV. 分析疫学的研究（コホート研究や症例対照研究） V. 記述研究（症例報告やケースシリーズ） VI. 患者データに基づかない、専門委員会や専門家個人の意見 ( IV )	
	Pubmed ID	9524709	
	医中誌 ID		
	雑誌名	Ann Surg Oncol.	
	雑誌 ID		
	巻	5	
	号	1	
	ページ	54-63	
	ISSN ナンバー		
	雑誌分野	1.医学 2.歯学 3.看護 4.その他 ( 1 )	
	原本言語	1.日本語 2.英語 3.ドイツ語 4.その他 ( 2 )	
	発行年月	1998	
著者情報		氏名	所属機関
	筆頭著者	Mooney MM	Roswell Park Cancer Institute
	その他著者 1	Kulas M	同上
	その他著者 2	McKinley B	同上
	その他著者 3	Michalek AM	同上
	その他著者 4	Kraybill WG	同上
	その他著者 5		
	その他著者 6		
	その他著者 7		
	その他著者 8		
	その他著者 9		
その他著者 10			

一次研究の8項目	目的	再発を検出するための検査項目が生存に影響するかを調査した	
	研究デザイン	後ろ向きコホート研究および症例対照研究	
	セッティング	Roswell Park Cancer Institute	
	対象者	1971年から1995年まで登録されたAJCC Stage I または II の患者 1004人	
	対象者情報 (国籍)	1.日本人 2.日本人以外 3.国籍区別せず ( 3 )	
	対象者情報 (性別)	1.男性 2.女性 3.男女区別せず ( 3 )	
	対象者情報 (年齢)	1.乳幼児 2.小児 3.青年 4.中高年 5.老人 6.乳幼児・小児 7.乳幼児・小児・青年 8.乳幼児・小児・青年・中高年 9.乳幼児・小児・青年・中高年・老人 10.小児・青年 11.小児・青年・中高年 12.小児・青年・中高年・老人 13.青年・中高年 14.青年・中高年・老人 15.中高年・老人 16.乳幼児・青年 17.乳幼児・中高年 18.乳幼児・老人 19.小児・中高年 20.小児・老人 21.青年・老人 22.年齢区別せず ( 22 )	
	介入 (要因曝露)	診察と胸部X線撮影を1年目は3ヵ月ごと、2年目は4ヵ月ごと、3 から5年目は6ヵ月ごと、6年目以降は年1回。血算と肝機能検査 は1年目は3ヵ月ごと、2から5年目は6ヵ月ごと、6年目以降は 年1回。	
	エンドポイント (アウトカム)	エンドポイント	区分
		1	再発
	2		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	3		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	4		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	5		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	6		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	7		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	8		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	9		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	10		1.主要 2.副次 3.その他 ( )
	主な結果	<p>初回再発が確認された174人中154人から情報が得られた(89%)。</p> <p>初回再発の時期は1年目30%、2年目19%、3年目18%、4から5年目18%、6年以降16%。</p> <p>再発発見のきっかけは</p> <p>患者、家族または医師による触診 72%</p> <p>全身症状 17%</p> <p>胸部X線 11%</p> <p>血液検査で発見された症例は無かった。</p> <p>肺転移に関して無症状で見つかった症例と、何らかの症状から見つかった症例の間に生存率の差はなかった。</p> <p>肺転移症例では手術可能症例と手術不可能症例の間に平均生存期間</p>	

		の有意差が認められた。
	結論	<p>大部分の再発は触診で見つかる</p> <p>血液検査は役立たない</p> <p>胸部 X 線で切除可能病変が見つければ平均生存期間の改善につながる可能性がある</p>
	備考	
レビューワーコメント	レビューワー氏名	古賀弘志
	レビューワーコメント	エビデンスのレベル分類 ( IV )